

HIGO プログラム選抜試験

2014. 7. 5

HIGO program selective examination for Kumamoto University

小論文（日本語版）

試験時間 1時間30分

(13:00~14:30)

Short Article

Duration of examination 90 min

(13:00~14:30)

注意事項 Attention

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子は開かないこと。
Do not open this booklet without the examiner's permission.
2. 問題用紙、解答用紙に乱丁等がないか確認すること。
Please check to ensure all pages are present in the correct order.
3. 試験問題は2題あります。どちらか1題を選択し解答すること。
Select any two questions to be answered among the questions **I**, and **II**.
4. 解答用紙をとじているホッチキスは、はずさないこと。
Do not remove the staple from the answer sheets.

I 下記の文章を読んで以下の問いに答えなさい。

Kさんは37歳、離婚歴のある黒人男性で、末期の慢性肝炎を患っている。彼は強盗の罪で現在州立刑務所に収監されている。刑期が10年になる3年後には仮釈放が決まっている。Kさんは15年前自動車事故で負傷した際の輸血がもとで、C型肝炎に感染した。収監中だった5年前にスクリーニングテストを受け、肝炎と診断された。一連のインターフェロン治療では一時的に症状が緩和しただけだった。

刑務所の医師は、Kさんが助かる道は肝移植しかない、という結論を出した。法律が移植を許可していることにより、刑務所の管理部もこれを認めた。地元の臓器移植ネットワークに電話がかけられ、こうして彼は肝臓移植のウェイティングリストに載った。

Bさんは30歳、離婚歴のある白人女性で、ホテルのメイドで生計を立て、3人の子どもを育てている。集中治療を受けたにもかかわらず、Bさんは末期のC型肝炎で入院中である。彼女の感染も輸血によるものだった。Bさんの主治医は、Bさんが助かる方法は肝臓移植しかない、と結論づけた。不幸なことに、彼女は家族からの臓器提供を受けられなかった。また、生命保険に入っていなかったうえ、メディケード（低所得者のための国民医療保障制度）にも認定されなかったため、ウェイティングリストには載っていない。

Bさんの父親は収監者のニュースを新聞で読んでいた。彼は州がその収監者を肝臓移植のウェイティングリストに載せることに同意しているのに、自分の娘は載せられないことに憤りを感じている。政策は公平ではない(unjust)と感じ、弁護士を雇って訴えを起こそうかと考えている。

(The Hastings Center Report, vol.32, No.4, 2002)

問1. Bさんの父親がこのようなウェイティングリスト政策を公平でない(unjust)と感じたのは何故か。その理由を推測しなさい。(400字以内)

問2. アメリカ政府がこのようなウェイティングリスト政策を公平である(just)としているのは何故か。その理由を推測しなさい。(400字以内)

問3. この事例の背景には、ウェイティングリスト政策の問題のほかに保険制度の問題もある。国民皆保険制度について自分の考えを述べなさい。(600字以内)

II

あなたの国で、いま政府がコンシエルジュエ・ドクター・サービスを導入しようと計画していると仮定します。このことについて、立法者や科学者が議論すべき政治的課題についてどのようなものがあるか論じなさい。

コンシエルジュドクター

アメリカの病院にタフ屋がひしめいていることはないものの、多くの場合、医療を受けるには長い待ち時間がつきものだ。医師の予約は数週間前、ときには数カ月前に入れなければならぬ。予約した日時に病院を訪れても、待合室でしばらく待たされるかもしれないし、挙げ句の果てに、わずか一〇分か一五分分であわただしく診察してもらうだけだ。その理由は、保険会社が一次診療医プライマリケアの日常的な予約診療にあまり報酬を払わない点にある。開業医はまともな暮らしをするため、三〇〇人以上の患者を抱え、一日に二五〜三〇もの予約を大急ぎでこなすことが多い。

多くの患者と医師がこのシステムにいらいらを募らせている。医師が患者を理解し、質問に答えるための時間がほとんどないからだ。そこでいまや、ますます多くの医師が、「コンシエルジュ診療」として知られるより行き届いた医療を提供している。五つ星ホテルの接客係のように、コンシエルジュドクターは二四時間態勢でサービスを提供してくれる。患者は一五〇〇ドルから二万五〇〇〇ドルの年会費を払えば、当日あるいは翌日の予約、待ち時間なし、余裕のある診察、eメールと携帯電話による医師への二四時間アクセスを保証される。一流の専門医に診てもらわなければならない場合は、コンシエルジュドクターが手配してくれる。

この行き届いたサービスを提供するため、コンシエルジュドクターは診察する患者の数を大幅に減らす。コンシエルジュサービスへの業務転換を決めた医師は、既存の患者に手紙を送って二つに一つを選ぶよう伝える。すなわち、待ち時間のない新サービスを申し込むか、ほかの医師を見つけるかだ。

最も初期の、最も料金の高いコンシエルジュ診療所の一つが、一九九六年にシアトルで設

立されたM^エD^エ 2^エだ。この会社は一人あたり一万五〇〇〇ドル（一家族あたり二万五〇〇〇ドル）の年会費で、「主治医への無条件、無制限、独占的なアクセス」を約束する。一人の医師が担当するのは五〇家族だけだ。MD2は自社のウェブサイトでこう説明している。「わが社が提供する利便性とサービスレベルを維持するには、選ばれた少数の方々の診察に専念することが必要不可欠です」。「タウン&カントリー」誌によると、MD2の待合室は「医院というよりリッツ・カールトンホテルのロビーのよう」だという。だが、ほとんどの患者はそこへ行くことさえしない。患者の大半は「CEOや企業オーナーであり、彼らは医院へ行くために一日のうち一時間をつぶすのをいやがる。代わりに、自宅やオフィスで個人的に治療を受けることを望む」。

アップバーミドルクラス向けのコンシエルジュ診療所もある。MDVIPは、フロリダを拠点とする営利目的のコンシエルジュチェーンだ。この会社は、一五〇〇〜一八〇〇ドルの年会費で当日予約と迅速なサービス（電話をかけるとコール二回以内に出てもらえる）を提供し、標準的な治療には保険金の支払いを受ける。所属している医師は受け持ちの患者数を六〇〇人まで削っているため、一人の患者にかける時間を増やせる。MDVIPは患者に「治療の過程でお待ちいただくことはありません」と請け合っている。「ニューヨークタイムズ」紙によると、ボカラトンにあるMDVIPの診療所の待合室には、フルーツサラダとスポンジケーキが並んでいるという。だが、待ち時間は仮にあってもごく短いため、食べ物に

手をつけられることは少ない。

コンシエルジュドクターとお金を払う顧客にとって、コンシエルジュ診療は申し分のないものだ。医者は一日に三〇人も診察する必要はなく八〜十二人ですむうえ、金銭的にも得をする。MDVIPと提携している医者は、年会費の三分の二を手にする(三分の一を会社が取る)。ということは、六〇〇人の患者を担当すれば、保険会社からの償還を除く顧問料だけで年に六〇万ドルにもなるのだ。経済的余裕のある患者にとって、急がなくても取れる予約と二四時間対応の医療サービスは、代価に見合う贅沢である。

もちろん、その短所は次の点にある。少数の人々のためのコンシエルジュ診療は、別の患者のぎゅうぎゅう詰め患者名簿に、ほかのすべての人を押し込むことで成り立っているのだ。したがって、あらゆるファストトラックに向けられる反対意見がここでも起こることになる。低速レーンでぐったりしている人々に不正ではないかと。

コンシエルジュ診療が、北京の診察予約券の特別販売窓口や、予約券の転売といったシステムと異なるのは確かだ。コンシエルジュドクターにかかる金銭的余裕のない人も、ほかの病院できちんとした医療を受けられる。一方、北京でダフ屋から予約券を買えない人は、何昼夜も待たされる羽目になる。

だが、二つのシステムにはこんな共通点もある。ともに、医療を受けるための行列に裕福な人々が割り込めるようになっていたのだ。ボカラトンより北京のほうが、割り込みはあ

からさまだ。人でごった返す登録ホールのごよめきと、食べられることのないスポンジケーキの置かれた待合室の静けさは、まったく異なる世界のものに思える。だが、そこには次のような事情があるにすぎない。コンシエルジュ診療を受ける患者が予約の時間に来院するときには、課金による行列の選抜は、見えないところですでに終わっているのである。

マイケル・サンデル

可
それとお金で買いますか
市場主義の限界ー四二〇二年。